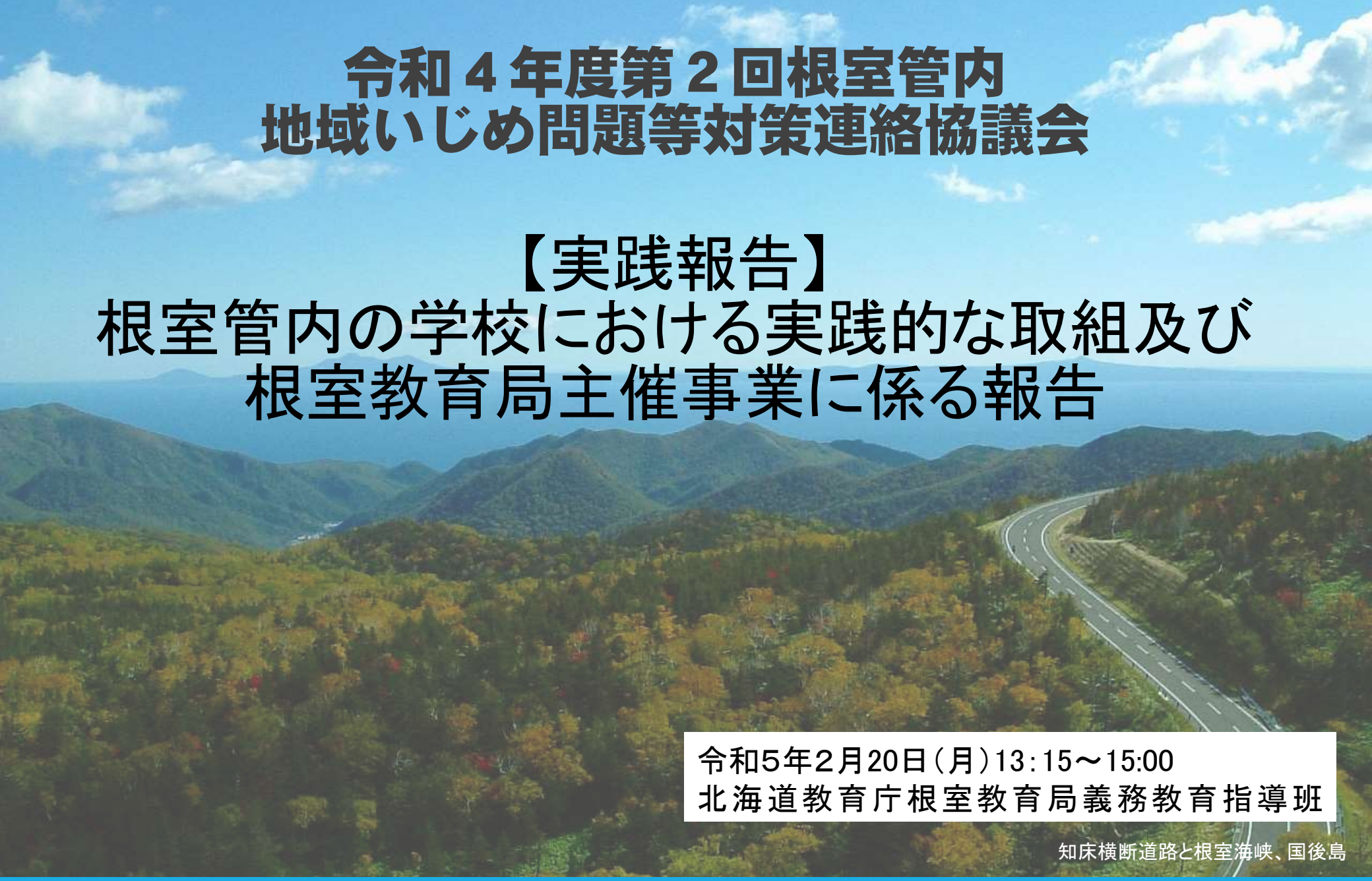
令和４年度第２回根室管内
地域いじめ問題等対策連絡協議会

【実践報告】
根室管内の学校における実践的な取組及び
根室教育局主催事業に係る報告

令和5年2月20日（月）13：15～15:00
北海道教育庁根室教育局義務教育指導班



知床横断道路と根室海峡、国後島

はじめに

１　令和３年度本協議会成果普及動画

２　いじめに対する理解を促す動画教材に係る事例

３　どさんこ子ども地区会議

４　児童生徒仲良しコミュニケーション活動奨励事業

５　根室教育局家庭教育通信

６　心の教育推進フォーラム

令和３年度根室管内地域いじめ問題等対策連絡協議会だより

令和4年3月31日（木）　発行：根室管内地域いじめ問題等対策連絡協議会事務局

【成果普及】令和３年度の取組の成果を発信～YouTube「根室教育局チャンネル」にて限定配信中～

【重点テーマ】自己を見つめ、相手を尊重し、豊かな人生を切り開く子どもの育成

児童生徒向け　教職員向け　関係機関・地域住民向け

各機関における今年度の取組の成果について広く周知し、次年度の取組の充実につなげるため、児童生徒向け、教職員向け、関係機関・家庭向けに映像資料を作成しました。御覧ください。

２　いじめに対する理解を促す動画教材に係る事例

子どもの状況

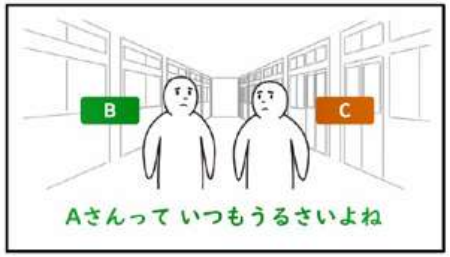
【学年】　第３学年

【目指す子どもの姿】
・相手意識をもち、自分の気持ちだけでなく相手の気持ちを考え行動する子ども

【学級の状況】
・児童は「いじめはよくない」という思いをもっているが、日常生活で実践できていない児童が見られる。

活用した映像教材

【いじめをなくそう】　いじめって何？



動画を活用する際のポイント

○　本動画を活用し、どのような行為がいじめにあたるのか確認させた。

○　動画を視聴させ、いじめが与える具体的な影響を知らせるとともに、日常生活で相手の気持ちを尊重することの大切さについて考えさせた。

○　動画を視聴させ、考えたことをこれからの日常生活でどのように生かすのか、それぞれの考えを交流させた。

指導後の子どもたちの変容

○　動画を見て、いじめの定義について改めて確認したことにより、児童は日常の言動について振り返り、言動を見直そうとする様子が見られるようになった。

○　動画を見て、「自分がいやなことは、相手もいやだと感じる」など、児童は相手の気持ちを考えて行動することの大切さについて再確認し、気を付けようとする様子が見られるようになった。

3　どさんこ子ども地区会議

【協議している様子】

【他の会場に向けて発表している様子】

4　児童生徒仲良しコミュニケーション活動奨励事業

【標津町のリーダー会議の参加者】

【光洋中学校のいじめ根絶宣言】

社会教育分野でいじめを取り扱った理由

○子どもは、学校と同じくらいの時間を地域や家庭で過ごしている。

○社会全体や保護者の価値観が、子どもの心に大きな影響を与えている。

○いじめの加害者・被害者の心のケアは、学校だけでは解決しづらくなっている。

○いじめは、身近にありながら、ずっと以前からある問題。社会全体で考え続けることが必要。

根室教育局家庭教育通信（FAN）とは

子どもの健やかな成長を願い、日々努力している保護者をアシストする一助となることを目的に根室教育局が令和４年４月から毎月発行。　Family Assist of Nemuro　の頭文字。

教育基本法　第10条の２
国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

保護者が子どもと共に学び、成長する喜びを味わって欲しいという願いを持って発行

これまでの見出し･記事

１　管内の子育てをアシスト
２　各市町の図書館は読書による子育てを応援しています
３　子どものゲーム時間どうしてますか？
４　生活上の問題が起きているのにやめられない
　　ゲーム依存　小学生にも
５　災害は忘れた頃にやってくる
６　いじめを知ったらどうしますか？
７　ネットトラブルのリアル
８　子どもの頃の読書　効果あり
９　手軽にできるストレス解消法
10　家庭教育サポート企業等　交流会を実施します

根室教育局のHPに掲載

5　根室教育局家庭教育通信

A4 1枚

スポーツ新聞風の見出し

イラスト多め

根室教育局家庭教育通信　「FAN」　(Family Assist of Nemuro)　No. 6

FAN

いじめを知ったらどうしますか？

いじめは、家庭教育の在り方に大きな関わり

どの子どもにも、どの学校にも起こりえる

いじめの問題は、保護者が子どもの時から見聞きし、悲しい出来事がある度に、報道等で取り扱われています。いじめについて、真剣に悩んでいる子は、今もどこかにいるはずです。その子が、我が子だったら、皆さんどうしますか？

我が子が被害者、加害者のどちらかで、いじめに関わっていることが分かったら、きっと思い悩み、目の前が真っ暗になってしまうかもしれません。

あまり考えたくはないかもしれませんが、少しだけ「いじめ」について考えてみませんか。

加害者になっていたら

いじめを行う人には、「間違った考え」がある、ということを学ぶ機会がありました。シンキング・エラーというそうです。

我が子がいじめ行為をしているということは、保護者には受け入れがたいことですが、子どもの「間違った考え」を修正することで、対応できると考えられます。

この「間違った考え」の修正は、学校だけではなかなか難しいのが現実です。家庭と学校が力を合わせて、個性や差異を尊重する態度やその基礎となる価値観を育てていけるよう指導していけるといいですね。

例えば、以下のように、子どもが言い訳したら、保護者として、どのような声かけをしますか？

① そのいじめは、他の人が始めたから仕方がなかった。（いじめをこやらざるを得なかった。）

② こんなことで、相手が深く傷つくとは思わなかった。

③ 相手が先に悪口を言い、仲間はずれをしてきた。相手もみんなに悪口を言われ、仲間はずれにされて当然だ。

被害者になっていたら

いじめの被害にあった子どもを叱る保護者がまれにいます。「隙をみせるから悪い」「悔しかったら他のこと（たとえば勉強）で見返してやれ」というものです。

しかし、それではいずれ被害者が沈黙し、いじめを深刻にしてしまうおそれがあります。「いじめの被害者は悪くない」とのメッセージをおうちの人からもらうことで、救われる子どもも多いはずです。

そして「うちの子にも落ち度があるのではないか」などと考えず、ぜひ学校に相談してみてください。保護者が冷静になることで、学校も迅速で正確な対応が可能となります。

家庭でも、学校同様に子どもが発する危険信号を敏感に感知していただき、素早く対応していただけると、ありがたいです。

5　根室教育局家庭教育通信

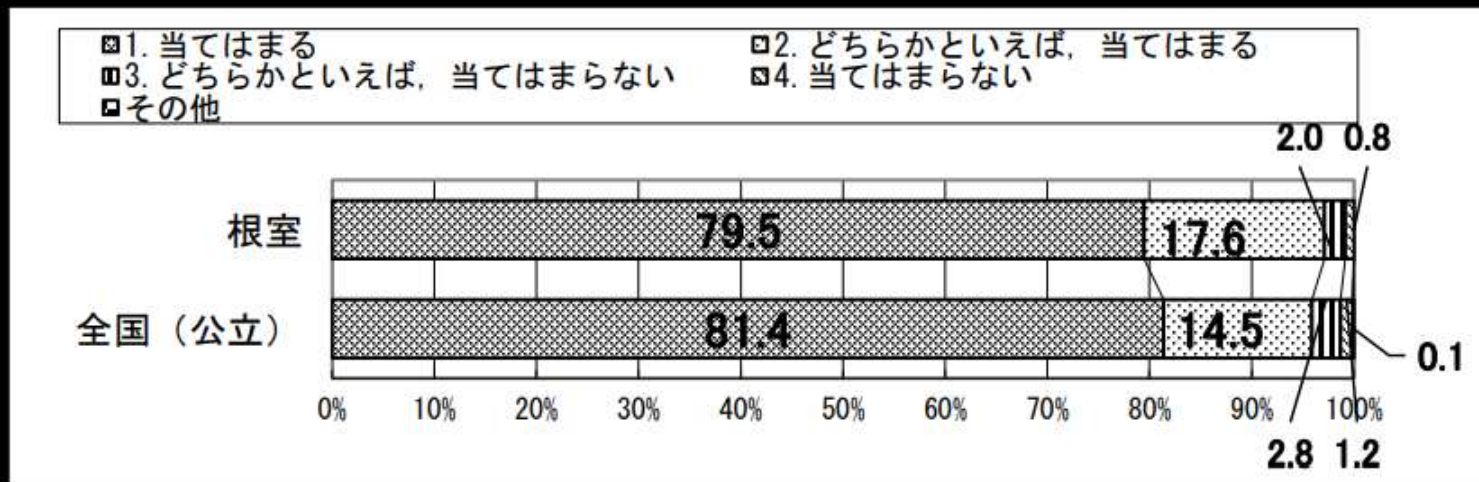
管内の子どもの現状を
データで

ねむろ子ども情報

令和３年度（2021年度）全国学力・学習状況調査における根室管内と全国（公立）との比較

根室管内の中学校三年生では、約八十％の生徒が「当てはまる」と回答しており、全国平均とほぼ同じとなっています。
いじめ問題を解決するためには、家庭が重要な役割を担っています。家庭内の深い愛情や精神的な支え、信頼に基づく厳しさ、親子の会話等のふれあいを大切にしたいですね。

【中学校】 いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか



６　心の教育推進フォーラム

実施経緯について

〇毎年、道内2管内（R3：石狩・留萌　R4：根室・檜山）で実施
〇法務省人権啓発活動地方委託事業を本庁が受け、主管局で開催

対象は一般道民

基調講演をプログラムに入れる必要あり

青少年を取り巻く今日的な課題を踏まえながら、主管局ごとにテーマ設定

講演テーマ：「いじめ問題に対する家庭・地域の対処法」

～大人の目が届かないところで傷ついた子どもの心のケア～

テーマ設定理由

・いじめは、重大な人権侵害につながる可能性があり「どんな理由があってもいけない」という意識を社会全体で高める必要。

・現在、いじめや人権侵害を受けているが、専門機関へ通っていない子どもの心のケアは、教師や保護者が行っている。

・困っている子どもに寄り添う大人が、子どもを癒すスキルを身に付けて欲しい。

事業概略

・開催：R4年11月26日（日） オンライン開催
・講師：北海道教育大学　大学院長　安川　禎亮　氏

６　心の教育推進フォーラム

根室教育局家庭教育通信　「ＦＡＮ」　(Family Assist of Nemuro)　No.9

FAN

手軽にできる

ストレス

対処法

子どもにも有効！

深呼吸でリラックス！

十一月末に「心の教育推進フォーラム」が実施され、北海道教育大学大学院長の安川禎亮先生が、子どもの人権について講演しました。
カウンセリングの専門家である安川先生から人権侵害を受けてしまった時のストレスを軽くするための対処法等について説明がありました。
これらのスキルは、学術的な裏付けがあり、子どもはもちろん大人にも効果が絶大であるとのことでした。
ぜひ、ストレスを感じたときには、お子様と一緒に試していただき、心身ともにリフレッシュしてくださいね。

腹式呼吸法

1. ゆったりと座る
2. 軽く目をとじる
3. 鼻から吸って口から吐く
4. 1，2，3で吸う。4で止める。
   5，6，7，8，9，10で吐く。
5. 吐く時に体の中の疲れやイライラも
   出ていくイメージをもつ。

ウォーキングも効果大

腹式呼吸で息を吸うと、普段の約7倍もの空気が、ゆっくり体内に留まるため、体内で効率的に二酸化炭素等の不要なガスを排出できるそうです。
また、ウォーキングでは、開始二十分程度で、ベータエンドルフィンやドーパミン等の脳内ホルモンが分泌され、やる気・達成感が感じられるそうです。また四十分以上行うことで、セロトニンが分泌し、幸福感・リラックスを感じることができるそうです。
これから寒い時期をむかえますが、天気の良い暖かい日には、ウォーキング等をしてみても良いかもしれませんね。

講演内容の一部を紹介

最後に

○　「いじめはどんな理由があっても許されない」ことを学校・家庭・地域が連携しながら、様々な形で、子どもにメッセージを伝えていくことが必要。

○　学校教育内では、すでに多様な形で子どもにメッセージを届けている。

○　家庭・地域が、子どもにどのように関わり、どのようなメッセージを送るかが大事。

根室「どさんこ★子ども会議」リーフレット

根室教育局教育支援課

いじめ問題を解決し、みんなが楽しく学校ですごすために

令和4年(2022年)11 月5日(土)、管内の5会場をオンラインで結び、「どさんこ子ども根室地区会議」を行いました。会議には、小・中・高等学校 16 校から 56 名の児童生徒が参加し、「みんなが安心して過ごせる」環境づくりに向けたグループ協議を行いました。

会議の最後にはそれぞれのグループが考えた「お互いが大切だと思える学校にするためのキーワード」についてオンラインで発表し合いました。

【根室市会場】
プラス言葉のポスターを作ることで、他学年と交流し、信頼関係を築く等の意見が出ていました。

【別海町会場】
児童会・生徒会が中心となって、友だちの良いところを見つけて、伝え合うことの大切さについて考えました。

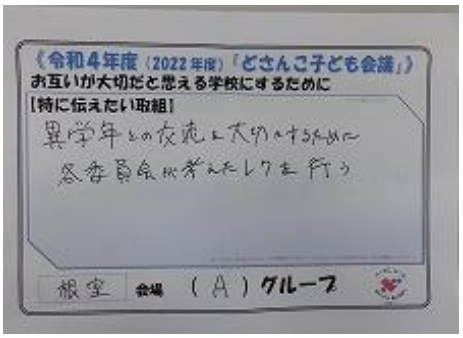
【中標津町会場】
行事等を通してみんなが交流しよりよい人間関係を築く方法をについて交流しました。

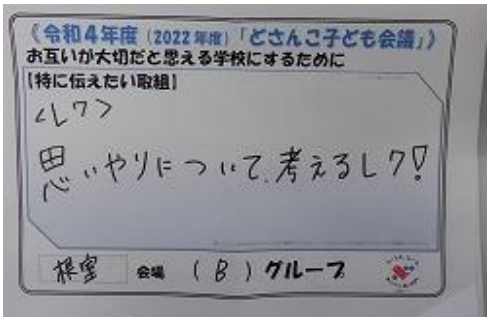
【標津町会場】
全校みんなの心が温まる交流をするため、挨拶等の取組に力を入れたいとの意見が出ていました。

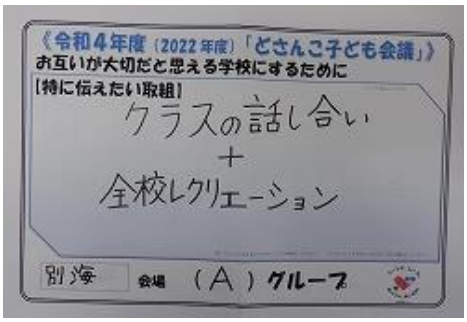
【羅臼町会場】
異校種間の交流の企画や、挨拶運動、アンケートの実施などの取組について検討しました。

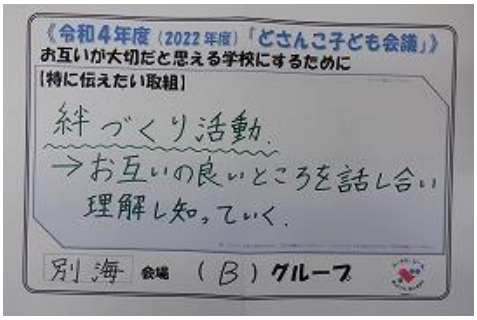
グループに分かれて話し合う前に、根室市立光洋中学校の「ピア・サポートの取組」、北海道別海高等学校の「学校いじめ防止基本方針」等の発表を聞き、いじめの問題について考えを深めました。

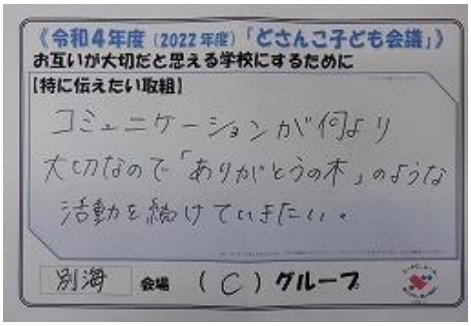
次ページに各グループで考えたキーワードを掲載(けいさい)しています

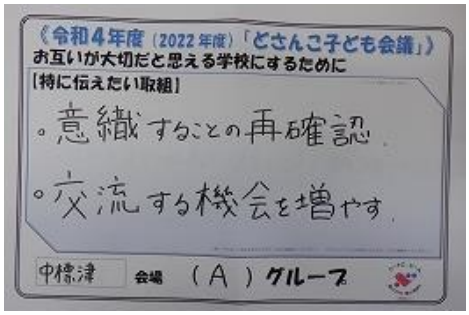


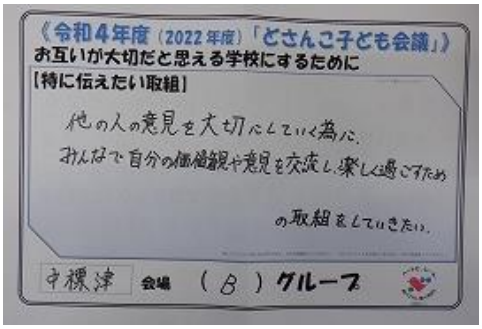


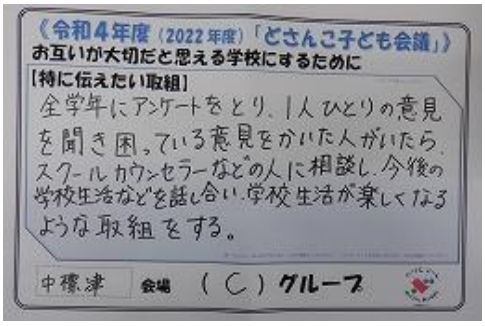


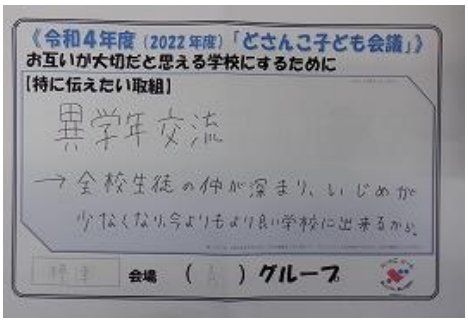


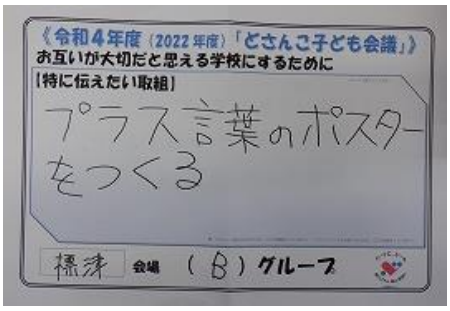


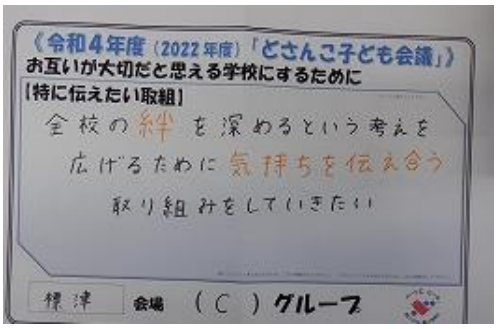


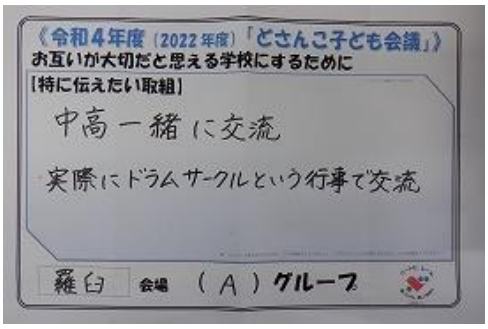


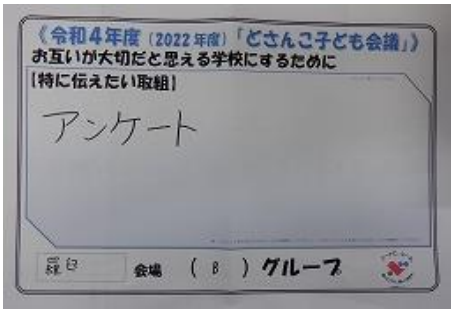


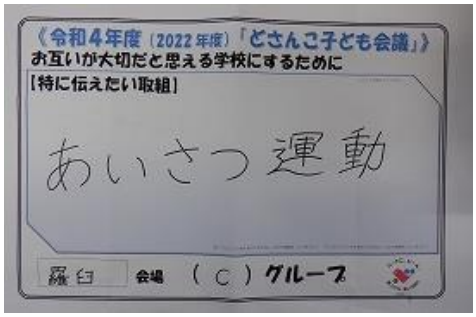












お互いが大切だと思う学校にするため、どのような「考え方」や「取組」が必要なのかを各グループで話し合い、最後のまとめを行いました。

自分の学級・学年・学校で話し合い、いじめ問題について考えてみては、いかがでしょうか。

標津町

すごしやすい学校づくりリーダー会議

〈 期　日 〉
令和４年（2022 年）12 月 26 日（月）
〈 会　場 〉
標津町生涯学習センター　あすぱる　多目的ホール
〈 参加児童生徒数 〉
29 名（小学生９名、中学生 12 名、高校生８名）

1　事業の概要

平成 28 年から実施していた「すごしやすい学校づくり子ども会議」を改め「リーダー会議」として今年度新たにスタートさせた。標津町いじめ防止基本方針「児童生徒同士が、いじめの問題を自分事として捉え、考え、議論する自主的な活動を推進する」に基づき、町内小中高校生のリーダーが一堂に会し、日頃の活動や異校種間での交流の成果等について報告し合うことで、人権意識を醸成し、相互に連携し合いながら自らの手で「誰もがすごしやすい学校」をつくっていこうとする意欲を養うことを目的として実施している。

2　事業の実施に当たって工夫しているポイント

（1）児童生徒が主体となる交流

各学校の取組の発表を、活動や交流場面の写真数枚を投影しながら、資料に基づいて児童生徒が説明した。また、協議の場面では、司会進行を務める高校生に対して、事前説明を行い、自分で考えながら、自分の言葉で運営できるように配慮した。

（2）いじめの未然防止の取組の交流にとどまらない問題提起

各学校で行われている「あいさつ運動」「プラス言葉」「異学年交流」などいじめの未然防止の取組の交流だけではなく、いじめによって自殺したとされる小中高生の遺書の一部を紹介した。自殺をした人の学校においても、児童生徒会でいじめに対する活動はされていたことが考えられることから、いじめはどこの学校でも起こり得る問題であることを確認した。

【小中合同あいさつ運動の様子】

（3）「いじめる側」「いじめられる側」「傍観者」それぞれの立場を踏まえた協議

「いじめ」に関して人間の弱さ・醜さに触れる詩を紹介し、簡単に「いじめる側」にも「いじめられる側」にもなり得ることを感じさせるとともに、「傍観者」について考え、傍観者の卑劣さについて協議する場を設けた。

◆　参加者の感想より
・小学生「自覚はしていないが、自分の中にもいじめる方の心があるかもしれない。」
・中学生「いじめと感じたら積極的に止めにいこうと思った。生徒会でも頑張りたい。」
・高校生「誰か一人だけが過ごしやすい学校ではダメ。自分から行動することが大事だ。」

3　今後の展望

○　本会議と道教委が主催する「どさんこ子ども地区会議」の内容を関連付けて行うことにより児童会や生徒会活動の活性化につなげていく。
○　小・中学校、高等学校の児童生徒が連携するだけではなく、全ての学校の教職員の意識を高めるために、「児童生徒会担当者会議」を開くなどして、異校種間の連携を強化する。

様式１

【学校名】根室市立光洋中学校
【活動名】ピア・サポート
【学年】　全学年
【教科等名】総合的な学習の時間、行事等

（観点②：絆づくり　項目：イ）

【活動のねらい】
・生徒が傾聴･受容を中心として対話に必要なコミュニケーションスキルを習得し、意見表明や話合いを行う力や､お互いを尊重できる集団をつくる力を育む。

【活動の工夫ポイント】
・ピア・サポート学習を年度初めに複数回に位置付け実施することにより、よりよい人間関係を築くための土台づくりを行う。
・生徒会が中心となり「いじめ根絶宣言」や「縦割り球技大会」を実施し、ピア・サポート学習で学んだスキルを生かす場面を位置付ける。

【活動の流れ】
①ピア・サポート学習
　１．アイスブレイク～緊張をほぐし、ロールプレイをしやすい雰囲気をつくる
　２．見本提示～教師がモデルを示し、具体的な行動を指導する
　３．エクササイズ～教師の示したモデルに沿って、ペア活動やグループ活動を行う
　４．シェアリング～エクササイズをしてみてどんな気持ちになったのかを共有する

＜見本提示＞

＜エクササイズ＞

＜シェアリング＞

カリキュラム等

学年	授業時数	指導者	学習内容
１年	年間５時間	学級担任をはじめとした全教職員	傾聴、説明、質問、話合い
２年			多様性理解、感情、相談
３年			会話、問題解決

②いじめ根絶宣言の作成
　ピア･サポート学習で学んだ傾聴･受容といじめを根絶させるために必要なことを関連付け、個人と学級でいじめ根絶宣言を作成した。また、生徒会が生徒会通信を作成し、全校生徒で各学級のいじめ根絶宣言を共有した。

＜いじめ根絶宣言＞

③生徒会企画の「縦割り球技大会」の実施
　ピア・サポート学習や「いじめ根絶宣言」で学んだことを生かし、人間関係の広がりを目指すことを目的として、生徒会が主体となり､「縦割り球技大会」を実施した。生徒会は、学年間の親睦を深めることを目的として取り組むことを全校生徒へ周知するとともに、第１学年から第３学年の生徒が混合でチームを編成した。生徒はチーム内で作戦を考えることにより、コミュニケーションの場面が生まれ、仲間意識を高めながら取り組むことができた。

＜縦割り球技大会＞

【本活動における成果等】
・ピア・サポート学習において、よりよい人間関係の形成について学んだことにより、生徒は互いの考えを尊重できる集団となり、生徒会が主体となった活動においても他の人を認めることや他の人の意見を取り入れる姿がより多く見られた。
・ピア・サポート学習において、よりよい人間関係の土台づくりを行うとともに、いじめ防止の取組を行ったことにより、いじめアンケート「いじめは決して許されない」という質問に「そう思う」と回答する生徒が令和３年度と比較し、7.4ポイント上回った。

FAN

いじめを知ったらどうしますか？

いじめは、家庭教育の在り方に大きな関わり

どの子どもにも、どの学校にも起こりえる

いじめの問題は、保護者が子どもの時から見聞きし、悲しい出来事がある度に、報道等で取り扱われています。いじめについて、真剣に悩んでいる子は、今もどこかにいるはずです。その子が、我が子だったら、皆さんどうしますか？

我が子が被害者、加害者のどちらかで、いじめに関わっていることが分かったら、きっと思い悩み、目の前が真っ暗になってしまうかもしれません。

あまり考えたくはないかもしれませんが、少しだけ「いじめ」について考えてみませんか。

加害者になっていたら

いじめを行う人には、「間違った考え」がある、ということを学ぶ機会がありました。シンキング・エラーというそうです。

我が子がいじめ行為をしているということは、保護者には受け入れがたいことですが、子どもの「間違った考え」を修正することで、対応できると考えられます。

この「間違った考え」の修正は、学校だけではなかなか難しいのが現実です。家庭と学校が力を合わせて、個性や差異を尊重する態度やその基礎となる価値観を育てていけるよう指導していけるといいですね。

例えば、以下のように、子どもが言い訳したら、保護者として、どのような声かけをしますか？

① そのいじめは、他の人が始めたから仕方がなかった。（いじめを）やらざるを得なかった。

② こんなことで、相手が深く傷つくとは思わなかった。

③ 相手が先に悪口を言い・仲間はずれをしてきた。相手もみんなに悪口を言われ、仲間はずれにされて当然だ。

被害者になっていたら

いじめの被害にあった子どもを叱る保護者がまれにいます。「隙をみせるから悪い」「悔しかったら他のこと（たとえば勉強）で見返してやれ」というものです。

しかし、それではいずれ被害者が沈黙し、いじめを深刻にしてしまうおそれがあります。「いじめの被害者は悪くない」とのメッセージをおうちの人からもらうことで、救われる子どもも多いはずです。

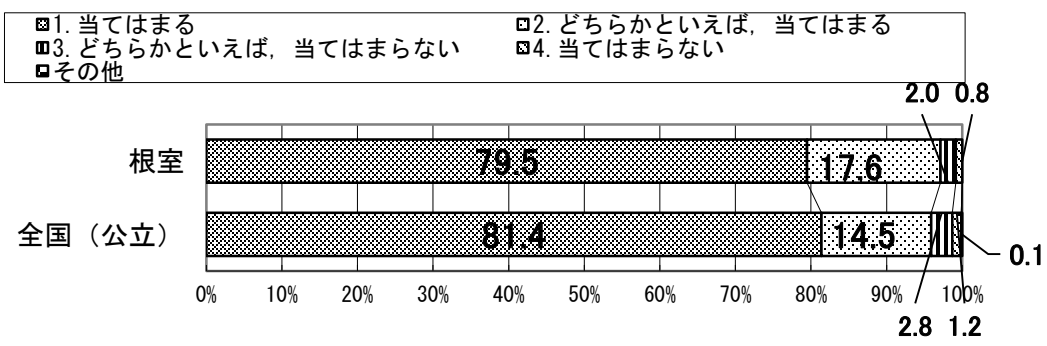
そして「うちの子にも落ち度があるのではないか」などと考えず、ぜひ学校に相談してみてください。保護者が冷静になることで、学校も迅速で正確な対応が可能となります。

家庭でも、学校同様に子どもが発する危険信号を敏感に感知していただき、素早く対応していただけると、ありがたいです。

ねむろ子ども情報

令和３年度（2021年度）全国学力・学習状況調査における根室管内と全国（公立）との比較

【中学校】いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか



根室管内の中学校三年生では、約八十％の生徒が「当てはまる」と回答しており、全国平均とほぼ同じとなっています。

いじめ問題を解決するためには、家庭が重要な役割を担っています。家庭内の深い愛情や精神的な支え、信頼に基づく厳しさ、親子の会話等のふれあいを大切にしたいですね。

本紙のご感想や、取りあげて欲しい小中学生向けの子育て支援情報の話題を「FAN編集担当者」までお寄せください。

nemukyo.seigaku1@pref.hokkaido.lg.jp